

大学病院特有項目: CPC(剖検症例臨床病理検討会)の検討症例率

▶ 項目の解説

CPC(剖検症例臨床病理検討会)とは、病理解剖(剖検)が行われた症例を対象とし、診断や診療のプロセスの妥当性を、臨床主治医および担当診療科医と病理医が一同に会し討論する症例検討会であり、診療行為を見直し、今後の治療に役立てる取り組みを評価する指標です。

単に症例のまとめを報告するに留まらず、臨床診断・治療から死亡に至るプロセスを体系的に網羅し、医学生、研修生の教育にも大いに寄与するものです。

▶ 定義

1年間のCPC(臨床病理検討会)の開催数を剖検数で除した割合です。学外の症例についても、担当医師を招いて実施した症例は検討症例数に含めます。

コメント

子宮内胎児死亡等のように、他の原因により死亡し、解剖体に特に異常を認めなかった症例以外、すべての症例においてCPCを開催しています。

臨床研修医においても、実際に各人が診療に関与した症例の症例提示・CPCレポートを作成することで、より現実的な事例として経験できます。

算式 $\frac{\text{分子:CPC開催数}}{\text{分母:病理解剖数}}$ 単位 %

